

いまいは
今

vol. 315

発行 今井町並み保存会
 発行日 令和8年9月1日
 電話 0744-22-1128
<http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/>
[e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp](mailto:imaicho@m3.kcn.ne.jp)
 ◇ご意見・ご感想は
 今井景観支援センターまで

猛暑に立ち向かって

第19回今井灯火会 開催！

8月1日(土)、今井町の真夏の夜の恒例行事となった今井灯火会が連日続く猛暑の中で開催されました。

灯火の準備を担って下さる方々は、皆さん汗だくになりながら18時頃から竹筒並べの作業に取り組んでいたいただきました。ご協力いただいた皆様には心から厚く御礼申し上げます。

19時からは、華薨の玄関先で点灯式を挙行しました。

まず、米川自治会長の開催挨拶。つづいて来賓として亀田樫原市長、うすい市議会議長、原山衆議院議員の祝辞のあと神田副議長と細川、矢追、奥田各市会議員が錦上花を添えて下さいました。



今年の高田商業高校の女子生徒5人が地域のイベントに協力参加するという課題の一環で今井灯火会を選んでくれたので、点灯式に集まった皆さんにその旨を披露しました。

具体的には、7月31

日の夕方から灯火会の大看板製作、灯火会当日は大看板の設置、今井町について実地学習、竹筒のろうそく点灯、見守り、及び春日神社や西環壕で受付業務を担当してくれました。

点火式では、中西当保存会長の合図で一斉に点灯しました。

灯火は、中尊坊通り、御堂筋、称念寺

境内、旧南口門周辺、

宮の前、春日神社、西

環壕広場に約2千個

点灯しました。

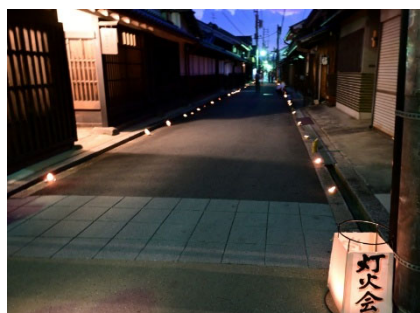
春日神社では、だん

じりの前で子供太鼓

の演奏があり、普段は

静寂な闇に包まれて

いる境内にだんじり



春日神社境内

の提灯の明るさと元氣

のいい太鼓の響きが昨

年とは変わった活気を

感じる灯火会を演出

してくれました。

西環壕の灯籠流しも

40基に達し、子供達が

いろいろ夢のある願い

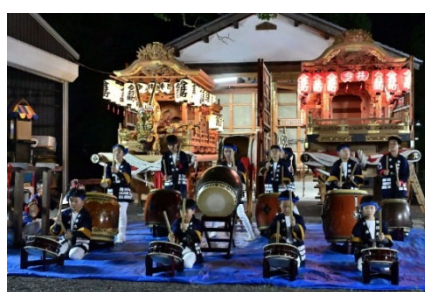
事を書き、記念撮影を

したりして、家族で大

いに盛り上がっていただ

きました。

今井環壕広場



檀原市伝統的建造物群保存地区 保存審議会 開催

7月29日(水)10時から今井まちなみ交流センター華菱の2階講堂において、標記審議会が開催されました。

本年度は、審議会の会長、副会長の改選期にあたりました。会長には、増井正哉氏、副会長には、米川憲久氏が再選出されました。

委員会のメンバーは、山本直彦氏、鈴木智大氏、吉田恭純氏と、町内からは、今井慶子氏、森本育寛氏、中西知当保存会長が委員として参加。

市当局は吉田副市長、他幹部職員と今井町並保存整備事務所中川所長以下職員が参加。

今年度は昨年着任した建築担当の加藤主査が初めて事業報告を行いました。今回の審議会において、中川所長から次の提案がありました。

伝統的建造物等の修理・修景事業に関する補助金算定基準の「補助基準額」の見直しの件です。

現在の算定方法は、修理に要する㎡当たりの見積もり単価と、檀原市が設定し

た㎡当たりの「補助基準額」を比較し、低い方の金額を適用しています。この「補助基準額」が、平成22年からずっと15年間改正されていないので現在の見積金額との乖離が甚だしく、実際に修理・修景を行う建物所有者の負担が大きくなっています。このことにより、建物所有者が修理・修景工事をためらう傾向が出ていることは否めません。そこで、「補助基準額」を実態に即した金額に見直すことで建物所有者の修理・修景事業の意欲を高めて補助金をより効果的に活用しようとすることを目的とした提案です。当保存会としては、時宜を得た提案と受けとめ賛意を表しました。

合わせて保存会として伝統的建造物所有者が相続や売買により変わっている事と、伝建物指定の文書を平成6年に



建物所有者に交付してから32年も経過している現状を踏まえ、改めて建物所有者への再通知や伝統建造物プレート(参考写真は、登録有形文化財のプレート)の支給等による伝建物所有

者としての意識の向上に繋がる施策を要望しました。

今井町は大丈夫？

熊本県で大地震 木造家屋の倒壊多数

先月28日、熊本県で最大震度7の大地震により、甚大な被害がでました。

TV等マスメディアの映像・写真に倒壊した瓦屋根の木造家屋を見て、能登の大地震での被害状況を思い出しました。今井町はほとんど木造家屋ばかりの町ですから、ひとごととは思えず、気になるところです。

現在町内での伝統的建造物の修理にあたっては、伝統構法建築に向けた限界耐力計算法により、耐震力を算出して震度7に耐えられるよう設計施工するそうです。

具体的な工法としては、屋根の荷重を減らす為に、瓦の軽量化、乾式工法(防水シート)の採用、土壁(竹を編み土、粘土で固める)、柱と柱の間に「ヌキ」を入れる貫工法等木材の特性を生かした耐震工法が採用されています。基礎についても礎石が動かないように「ベタ基礎」を施工して地盤を固めています。